



イギリス

持続可能な食の未来を

- WRAP: 廃棄物資源行動計画 ホームページ <http://www.wrap.org.uk/content/courtauld-commitment-2025>
- FSA: 英食品基準庁 ホームページ <http://www.food.gov.uk/news-updates/news/2016/14995/food-standards-agency-signs-pledge-to-cut-food-waste> ほか

2050年には地球の全人口は97億人に達するといわれ(2015年の国連予測)、食糧資源の確保は重要課題である。持続可能な社会のために、WRAP(廃棄物資源行動計画)では、食品廃棄を減らすことに取り組んできた。これまでに、コートールド公約は3期に分けて実施され、各段階で食品廃棄や包装・容器を減らす数値目標を掲げ、具体的には、各家庭で食品廃棄を減らす保存法や調理法、賞味期限の理解の普及、メーカーや小売業者などでの廃棄を防ぐための賞味期限の延長や表記の統一、容器の再利用や小型化、廃棄食品のコンポストなどさまざまなアドバイスをしてきた。その成果は、公約1期(2005~2010年)終了時には食品と包装の廃棄120万t減(18億ポンド節約)、CO₂(温室効果ガス)排出330万t減、公約2期(2010~2012年)終了時ではさらに廃棄170万t

減(31億ポンド節約)、CO₂排出480万t減を達成している。2015年第3期が終了し、第4弾として10年間にわたる「コートールド公約2025」が発表された。食品廃棄20%減、CO₂排出20%減、さらにサプライチェーンにおける水使用の削減で200億ポンドの節約を目標に掲げた。既にメーカーや販売業者、サービス業など国内市場の93%が参加、人口比換算で行政機関の40%以上も参加を表明している。

FSA(食品基準庁)は2016年2月、「私たちの食の未来」と題する公開討論会を開催、将来の食糧供給に大きな懸念を示す調査を発表した。現代の食生活に警鐘を鳴らし、食品廃棄の問題に取り組むことを提唱した。今回のコートールド公約2025の共同運営に参加し、今年度のFSAの食品安全週間(6月実施予定)は「食品ロス」に焦点が当てられる。



アメリカ

高圧洗浄機を安全に使うために

- コンシューマーレポート ホームページ <http://www.consumerreports.org/cro/pressure-washers/buying-guide/index.htm>
<http://www.consumerreports.org/pressure-washers/safety-alert-under-pressure/>
<http://www.consumerreports.org/pressure-washers/consumer-reports-zeros-in-on-pressure-washer-safety/>
- CDC ホームページ <http://emergency.cdc.gov/disasters/pressurewashersafety.asp> ほか

高圧洗浄機を使うと、家の外壁の落ちにくいカビやコケ、グリルのしつこい汚れなどが簡単に洗浄できる。通常のホースの吐出圧力約50psi(0.34MPa)に対し、1500~4000psi(10.3~27.6MPa)の強いパワーできれいに汚れを落とす。コンシューマーレポートでは、ガソリンエンジンタイプ9銘柄(250~500ドル)、電動タイプ15銘柄(100~250ドル)をテスト。洗浄力、吐出圧力・吐出水量、騒音、操作性などを総合的に評価して電動タイプ2銘柄を推奨している。

一方で、高圧洗浄機のノズルの先が狭い角度(0~15度)で噴射して直接人体に触れた場合の危険性に強い懸念を表している。高圧水流による傷害は、裂傷、打撲傷、刺し傷や目の損傷など。傷口が小さくても瞬時に皮下細胞の深部にまで水流が到達するので、細菌感染の原因となり、適切な処置や治療をしない

と障がいが残る場合がある。CDC(疾病予防管理センター)もすぐに医療機関を受診するよう注意を呼びかけている。実際、CPSC(消費者製品安全委員会)に報告された事故は、2014年だけで6,057人が救急搬送され14%はその後入院。そのなかで高圧水流に直接触れたのは2%である。

同誌では業界団体に対し、角度0度の付替え用ノズルや0度が可能なアジャスターを排除するよう要望したが、回答は、取扱説明書や本体に安全な使用方法を明記しているので適正に使用すればどの角度でも安全で効果的である、というものであった。そこで、この経緯をCPSCに通知するとともに、●0度のノズルやアジャスターは使わない ●ゴーグルで目を、硬い靴や長ズボンで足を保護 ●電動の場合は感電に注意などと、消費者にアドバイスしている。



ドイツ、オーストリア

吸引力は期待できないハンディ型掃除機

●商品テスト財団「テスト」2016年2月号 <https://www.test.de/Handstaubsauger-Ohne-Saft-und-Kraft-4969843-0/>
 ●VKI「消費者」2016年3月号 <http://www.konsument.at/handstaubsauger032016> ほか

コンセントがない場所でも手軽に使えるとして、ハンディ型掃除機の人気が高まっている。従来型（キャニスター型）に劣らない吸引力をうたう商品もあるが、実際はどのようなのだろうか。商品テスト財団では、ハンディ型掃除機10商品（コードレス8、コード付き2）の吸引力、使い勝手などをテストした*。

その結果、7商品が総合的に「不十分」と評価され、最も成績がよかったコード付きの1商品も「平均的」という評価にとどまった。厳しい評価となった要因の1つが、吸引力の低さである。テストはカーペット、硬い床、すき間、角などさまざまな条件で行われたが、カーペット上での吸引力が特に劣っていたという。ただし、カーペット上の糸くずはおおむね吸い取ったことから、犬の毛の掃除用としては問題ないと評価された。

手軽に使えるかという観点からも、疑問の残る結果となった。コードレス品では充電に数時間かかるが、運転可能時間は短く、強モードで7分しか持たない商品もあった。また、紙パック式の1商品を除くと、ダストボックスのごみ捨てが煩雑で不衛生という意見が出た。

さらに、2商品を除き、掃除機をかける際に微細なごみが空気中に排出される結果となった。そこで、ハウスダストに敏感な人は、紙パック式の従来型を選び、ハンディ型掃除機は二次的利用にとどめるのが無難だと結論づけている。

なお、テスト結果は、姉妹団体のVIK（オーストリア消費者情報協会）に提供され、加筆された記事が月刊誌『消費者』にも掲載されている。

* ロボット型掃除機に関する記事は、ウェブ版「国民生活」2015年4月号参照。
http://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-201504_06.pdf



ドイツ

ダイエットシェイクの宣伝に惑わされないで

●エコ・テスト出版「エコ・テスト」2016年2月号 <http://www.oekotest.de/cgi/index.cgi?artnr=107321&bernr=04&gartnr=1&suche=diaet%20shake>
 ●連邦ダイエット食品等に関する政令 https://www.gesetze-im-internet.de/bundesrecht/di_tv/gesamt.pdf
 ●ザクセン消費者センター ホームページ <http://www.verbraucherzentrale-sachsen.de/almased-versprechen-abgespeckt> ほか

体重が気になる女性を中心に、粉末を水や牛乳に溶かして飲む「ダイエットシェイク」が注目されている。さまざまな栄養素を含み、食事の代わりになるという意味で、フォーミュラ食とも呼ばれる。『エコ・テスト』では、バニラ風味のダイエットシェイク16商品を対象に、成分や表示を調査するとともに、問題物質の検出テストを行った。特に、「ダイエット食品等に関する政令」が求める栄養バランスに合致するか、使用方法の説明や注意表示が適切かどうかを重視した。

その結果、12商品が「不可の下」、3商品が「不可の上」と極めて低い評価になった。一般的に根拠に欠ける宣伝文句が目立ったという。例えば、「健康的に痩せる」とうたう1商品には、必要な栄養素が著しく不足しており、栄養バランスが最悪と評価され

た。「代謝を活発にする」「血糖値を下げる」とうたう別商品には、高等裁判所でこのような宣伝を禁止する判決が出たほどである。

また、使用方法の詳しい説明が欠けたり、注意表示が不適切な商品も多かった。ダイエット食品の使い方を誤ると健康上のリスクが大きいことから、上記政令では、医師の指示なしに3週間を超えて利用しないよう警告表示を求めている。しかし、医師に相談するよう助言する表示がまったくない商品もあった。

さらに、3商品から遺伝子組み換え大豆が検出されたほか、ほとんどの商品に香料・甘味料等が過剰に添加されていた。同誌は、ダイエット食品をやめたときのリバウンドにも言及し、ダイエットの難しさを指摘している。